

令和元年6月14日現在

機関番号：34526

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12357

研究課題名（和文）子ども虐待発生予防・再発予防支援の看護ネットワークの構築および有効性の検証

研究課題名（英文）Establishment and Validation of the Nursing Network for Preventing Child Abuse

研究代表者

松田 宣子（Matsuda, Nobuko）

関西国際大学・保健医療学部・教授

研究者番号：10157323

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：研究目的は、子ども虐待発生予防や再発予防支援のための看護ネットワーク（看護ネットワークとする）の構築及び有効性の検証である。文献検索や実践報告による検討の結果、兵庫県で実施している「養育支援ネット」が看護職ネットワークとして有効活用されている実態が分かったため、兵庫県下「養育支援ネット」に携わった病院看護職（助産師）3名と保健師11名に「養育支援ネット」の活用状況、看護ネットワークの成果及び課題について面接調査を実施し、結果、「養育支援ネット」の活用により看護ネットワークの成果及び課題が明らかになった。その研究成果を基に、看護ネットワークの試案を構築した。その試案への有効性の調査を準備した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回の研究成果として、看護ネットワーク（看護ネットワークとする）の活用により子ども虐待のハイリスクのケースを妊娠期から医療機関の看護職と地域保健の保健師とで綿密に連携を取り、子ども虐待発生予防や再発予防支援に成果をあげていることが明らかになった。今後どの地域においても子ども虐待発生予防や再発予防支援のために看護ネットワークの活用を推進していくことで、子ども虐待発生予防や再発予防支援に繋がる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research was to establish a nursing network for the prevention of child abuse and to validate it. As a result of literature search, "YOIKU-SHIEN-NET" was uncovered as one of useful nursing networks in Hyogo prefecture. Interviews of 3 midwives and 11 public health nurses who had experience in using "YOIKU-SHIEN-NET" were conducted. The outcomes and issues of nursing network on using "YOIKU-SHIEN-NET" were identified. A nursing network model based on the research outcomes was suggested. In addition an investigation for the validation of the new model was prepared.

研究分野：地域看護学

キーワード：看護ネットワーク 子ども虐待 発生予防 再発予防支援 保健師 医療機関看護職 養育支援ネット  
連携

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

### 研究の学術的背景

平成 12 年に児童虐待防止法が施行され、虐待への関心が増し、子どもに関わるすべての職種に虐待の発見や対応への視点が広がりつつある。子どもの虐待の社会的背景や要因などが徐々に明らかとなり、虐待の重症度などに基づき、関係機関・多職種が連携・協働した上で支援していく重要性が唱えられている。厚生労働省が平成 24 年度に行った児童相談所における児童虐待相談対応件数は、6 万 6701 件であり、毎年増加の一途をたどっており、多数の死亡事件が発生している。子ども虐待発生防止や再発防止のための有効な地域システムなどの研究は見当たらない。

## 2. 研究の目的

研究目的は、子ども虐待発生予防や再発予防支援のための看護ネットワーク構築および有効性の検証である。

## 3. 研究の方法

研究期間は、3 年間である。研究は下記のように 4 段階にわたって行う。

【平成 28 年度】第 1 段階の実施である。

第 1 段階：国内外（特に国外では英国や米国）の先行研究を pub-med、med-line、医学中央雑誌や CiNii で 2011 年～2015 年間で子ども虐待の実態（衛生統計による動向、子ども虐待への施策や地域ネットワークなど）、子ども虐待防止のための医療機関、保健機関および福祉機関との連携・協働やシステム、保健師の虐待支援に関する研究を検索し、文献検討を行う。また、英国の看護ネットワークの実際と有効性について現地にて調査を行う。

【平成 29 年度】第 2 段階および第 3 段階の実施である。

第 2 段階：平成 22 年度～24 年度に取り組んだ科学研究補助金基盤研究 C「ハイリスク児の虐待予防への保健師が行う関係機関との連携・調整の有効な方法の開発」では、事例検討会や合同会議の開催など医療機関と地域保健との「顔の見えるつながり」により有効な連携が行われていたので、その成果を活用する。それと同時に今回の看護ネットワーク構築のためには、保健所・市町村保健師が病院看護師・助産師に対して子ども虐待予防・再発予防に向けての連携時に必要な情報や連携方法および連携での困難な事柄、子ども虐待への発見および支援のスキルなどの状況把握のための調査が必要であり、研究分担者とともに調査票の作成および調査を実施する。

第 3 段階：第 1 段階および第 2 段階の結果から、看護ネットワーク試案を研究分担者とともに構築する。

その看護ネットワーク試案を A 県下で研究に協力の承諾が得られた保健所・市町村（約 10 か所）の保健師が主導的に導入し、普段より連携をしている病院看護師・助産師（病院 10 か所）とともにアクションリサーチで研究を進め、さらなる看護ネットワーク試案を精練させていく。

【平成 30 年度】第 4 段階の実施である。

第 4 段階：第 3 段階の看護ネットワーク試案を導入し、実践した病院看護師・助産師および保健所・市町村保健師のそれぞれ 10 組にグループインタビュー法を用いて看護ネットワークの有効性を抽出する。その研究結果について分析した後、全国保健所および市町村の 5 年以上の保健師に対して無作為抽出にて精練した看護ネットワークの有効性について専門家としての意見や実際の導入の結果について調査し、統計手法を用いて分析を行い、有効性を検証する。

#### 4．研究成果

##### 【平成 28 年度】

第 1 段階として、国内外の先行研究の文献検討および有効な子ども虐待発生予防や再発予防支援のためのネットワークに関する情報収集を実施した。まず、国内外の先行研究により、子ども虐待の実態（衛生統計による動向、子ども虐待への施策や地域ネットワークなど）、子ども虐待防止のための医療機関、保健機関および福祉機関との連携・協働やシステム、保健師の虐待支援に関する先行研究を検索し、文献検討を行った。まず、医学中央雑誌 Web 版を用いて、最新の 5 年間分（2012 年から 2017 年）の原著論文を対象に検索した。キーワードは、「児童虐待」「予防」「連携」「保健師」で、抽出された文献 14 件のうち、目的に合致しないと判断した文献を除外し、7 件の文献を分析対象とした。結果、児童虐待支援として保健師や助産師が他職種・多機関と連携・協働した結果の検討や地域保健と医療機関との連携の在り方の検討や効果に関するものがあった。また国外文献で、特に「International approaches to child protection: What can Australia learn? CFCA(Child Family Community Australia) PAPER NO.23 2014」によると欧米各国でのアプローチの方向性が示されていた。オーストラリア、アメリカ、イギリス、カナダ、ニュージーランドでは児童保護重視であり、ヨーロッパ諸国（デンマーク、ベルギー、スウェーデンなど）では家族支援・サービスが重視されていた。このように欧米各国によりアプローチの方向性は両極的に捉えられることも多い。次に、現在、有効である子ども虐待発生予防や再発予防支援のための看護ネットワークに関する情報収集を兵庫県下市町村の保健師より行った。今後本格的な調査を実施するために研究計画を立案し、所属する大学の研究倫理委員会に申請書類を作成し、提出した。

##### 【平成 29 年度】

第 2 段階として、第 1 段階の文献検討、プレテストで得られた結果や兵庫県下保健師 3 名からの情報収集・分析などから、協議し、科研グループの会議の意見として新たに看護ネットワークを構築するよりも兵庫県下で行われている「養育支援ネット」が有効な子ども虐待発生予防や再発予防支援のためのネットワークとして有効と考えた。そこで第 3 段階としては、新たな看護ネットワークの構築よりも、現在兵庫県下で用いられている「養育支援ネット」の活用成果と課題について調査を計画し、実施した。

##### [ 実施した研究計画について ]

1．研究目的：未熟児などハイリスク児の虐待予防や養育支援に有効とされている「養育支援ネット」の活用の現状と成果と課題について病院看護職と保健師との双方がどのように捉えているかを明らかにする。

2．研究方法：「養育支援ネット」を活用している NICU の病院看護職などと地域保健の保健師との活用の現状と成果、課題を明らかにするため、半構成的質問紙を用いて「養育支援ネット」に携わったことのある兵庫県下病院看護職（看護師・助産師）5 名と保健師 5 名に半構成的質問紙を用いてインタビュー調査を行い、質的分析を行う。

3．実施内容：地域保健の保健師として NS 市、KB 市、KT 保健所、KO 保健所、SU 保健所、MK 市、KT 市、ON 市、AW 市、IN 町の 11 名に実施し、病院の看護職として兵庫 H 病院助産師、K 病院助産師、D 病院助産師の 3 名に実施した。

##### 【平成 30 年度】

第 4 段階として、平成 29 年度の調査結果の分析を行った。インタビュー内容を逐語録に起こし、内容分析を行った結果、兵庫県下で行われている看護職による「養育支援ネット」の成果および課題が明らかになった。カテゴリーは < > で示す。

〔「養育支援ネット」の活用の成果〕

1 .保健師の活用成果のカテゴリーとしては<情報共有>、<連携による支援活動の円滑化>、<退院前からの継続支援>、<連携体制の強化>、<今後の体制検討へのきっかけ作り>が抽出された(表1)。

表1 「養育支援ネット」活用の成果(保健師)

カテゴリー	サブカテゴリー
情報の共有ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報が入るシステムとして機能している</li> <li>・ 看護職から家族背景の情報提供が入ってくる</li> <li>・ 病院からの客観的な情報が得られる</li> <li>・ 病院の助産師から記録やサマリーがくる</li> <li>・ 妊娠中の医療機関とのやり取りや出産後のデータなど客観的なデータがあるのは有り難い</li> <li>・ 電話でのやり取りを密に行い共通認識を図れた</li> <li>・ 訪問するまでの経過がわかる</li> <li>・ ネットの研究会主催で保健師の役割認識ができ医療機関・市・保健所との共通認識が持てた</li> <li>・ 圏域の産科不足による母親への指導不十分への対策について市、医療機関、保健所間でよく話し合うことができた</li> </ul>
連携により支援活動がスムーズにできる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院から養育支援ネットで同意が得られ、ケースにスムーズに介入できた</li> <li>・ 母親の状況を見て入院中から連絡が来ることもある</li> <li>・ 母親の同意があるため話がスムーズにしやすい</li> <li>・ 早期に介入できる</li> <li>・ 支援担当者が明確になり、確認・報告の部署がわかる</li> </ul>
退院前からの継続支援ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退院前でも情報が得られればアプローチできる</li> <li>・ ケースの状況を踏まえた継続的な支援がスムーズにできる</li> <li>・ 退院前カンファレンスを呼びかけてくれる</li> </ul>
連携体制が強化された	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年1回の養育支援ネット会議で顔合わせができ、顔の見える関係になってきた</li> <li>・ 熱心な小児科医師の声かけによる養育支援ネット推進会議の発足と定期的な会議の開催</li> <li>・ 会議開催による顔の見える関係の構築から連携が強化できた</li> </ul>
今後の体制検討へのきっかけができた	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ケースを通して管内のサービスや他の市町のサービスを検討できた</li> </ul>

2 .助産師の活用成果のカテゴリーとして、<速やかな対応>、<妊娠中からの連携>、<電話の活用による状況の把握>、<書面による正確な情報伝達>、<心配なケースに対する確実な対応>、<担当者との連携強化>、<情報伝達の簡便化>、<ハイリスクケースに対する確実な対応>が抽出された(表2)。

表2 「養育支援ネット」活用の成果(助産師)

カテゴリー	サブカテゴリー
速やかな対応ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 速やかな対応</li> <li>・ 退院後1週間以内の訪問を依頼すると1週間以内に対応してもらえる</li> </ul>
妊娠中からの連携できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妊娠中から連携できる</li> </ul>
詳細な状況についての電話の活用ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接聞いた方がニュアンス的に伝わる場合、訪問後の電話連絡がある</li> <li>・ 健診結果の電話活用</li> </ul>
養育支援ネットの書面による正確な情報伝達ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援ネット、電話だけでなく書面ですべてで情報がかんたん伝わる</li> <li>・ こちらが注意して欲しいことを具体的に伝えられ、向こうもそれがわかってそれを見に行ってくれる</li> <li>・ 書式があるので情報を伝えやすい</li> </ul>
心配ケースへのレスポンスがあり、安心できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それに対するレスポンスがある。その心配していた人達が、元気に問題なく生活できていることがわかるとこちらでも安心</li> </ul>
担当者との繋がりができている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ だいたいどこも窓口のかたがある程度わかってきたような感じはする。ネットの会議で市町とも顔見知りになった</li> <li>・ 気軽に連携が取れる</li> </ul>
情報を伝えるのが簡便になった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書式があるので情報を伝えやすい</li> <li>・ サマリーを書き上げるのが大変だったが今は簡便になった</li> <li>・ 経験年数に関わらず様式で情報を伝えることができる</li> <li>・ やり取りが直接できて良い</li> </ul>
リスク高い人への対応ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リスク高い人達がやっていけたのはこれのおかげなのかなとも思う</li> </ul>

〔「養育支援ネット」の活用の課題〕

1. 保健師で課題として抽出されたカテゴリーは、<「養育支援ネット」への認識の温度差>、<情報提供の基準の標準化が必要>、<個人情報に関する認識の不一致>、<連携にタイムラグが生じる>、<里帰り出産の情報不足>が抽出された。

2. 助産師で課題として抽出されたカテゴリーは、<タイミングの良い連絡が必要>、<保健師の担当変更時の申し送りが必要>、<相互のやり取りをリアルタイムで行う必要性>、<問題解決後のフィードバックがほしい>、<院内での文書送付に時間がかかる>、<保健師のニーズがわからない>、<保健師と話し合う機会がほしい>が抽出された。

〔予定している研究計画〕

1) 研究目的：子ども虐待発生予防・再発予防支援の看護ネットワーク試案への専門的意見を求め、看護ネットワークの開発につなげる。

2) 研究方法：対象は全国の母子保健を担当する保健師である。調査内容は平成 30 年度に行った調査の成果及び課題に検討を加え、子ども虐待発生予防や再発予防支援の看護ネットワーク試案について、専門的意見を求める項目や各地域で実施している子ども虐待発生予防や再発予防支援のための支援システムや支援方法などについて、全国の保健所で母子保健を担当している保健師にデルファイ法調査及び実態調査を実施する準備を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

1. 松田宣子, 石井美由紀, 内村利恵, 高田哲, 高橋洋子 (2017): 保健師が行う子ども虐待防止介入モデルの開発, 日本公衆衛生雑誌, 64 (10), 480, 査読無

2. 内村利恵, 松田宣子 (2017): 特定妊婦と子どもへの支援に関する文献レビュー, 日本公衆衛生雑誌, 64 (10), 459, 査読無

3. 小坂素子 (2018): 医療的ケアを必要とする在宅療養児の母親の諸相に関する文献検討, 関西国際大学研究紀要, 19, 169-178, 査読有

4. 松田宣子, 石井美由紀, 内村利恵, 伊東愛, 小坂素子, 高橋洋子 (2018): 子育て支援ネットの活用の現状および成果, 日本公衆衛生雑誌, 65 (10), 398, 査読無

5. 古谷裕子, 石井美由紀, 松田宣子, 櫻井しのぶ, 高田哲 (2018): 熟練保健師による母子保健活動における他職種との協働を促進するプロセス, 日本公衆衛生雑誌, 65 (10), 459, 査読無

〔学会発表〕(計 1 件)

1. 松田宣子 (2019): 養育支援ネットを活用した医療機関看護師と行政保健師との連携の成果と課題, 日本小児看護学会第 29 回学術集会予定 (採択)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者 1

研究分担者氏名：高田 哲

ローマ字氏名：TAKADA SATOSHI

所属研究機関名：神戸大学

部局名：保健学研究科

職名：名誉教授

研究者番号(8桁)：10216658

研究分担者 2

研究分担者氏名：伊東 愛

ローマ字氏名：ITOU AI

所属研究機関名：関西国際大学

部局名：保健医療学部

職名：講師

研究者番号(8桁)：40382270

研究分担者 3

研究分担者氏名：石井 美由紀,

ローマ字氏名：ISHII MIYUKI

所属研究機関名：神戸大学

部局名：保健学研究科

職名：助教

研究者番号(8桁)：40437447

研究分担者 4

研究分担者氏名：小坂 素子

ローマ字氏名：KOSAKA MOTOKO

所属研究機関名：関西国際大学

部局名：保健医療学部

職名：講師

研究者番号(8桁)：80353069

研究分担者 5

研究分担者氏名：内村 利恵

ローマ字氏名：UCHIMURA RIE

所属研究機関名：神戸大学

部局名：保健学研究科

職名：助教

研究者番号(8桁)：80634295

## (2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。